

ドクター和のニッポン

臨終回巻



「Dr. 和の町医者日記」と題して、かれこれ10年もブログを書いています。日々の出会い、患者さんとの一期一会、時には医療に対する怒りなども綴ります。

多忙で数日怠ると、「長尾先生、死んだの?」とコメントが寄せられることが…そこでふと考えます。もし私が突然死したら、このブログはどうなるんやろ、と。最近は「デジタル生前整理」なる言葉まで

あるらしいですね。家族に知られたくないことまでネットの中に残ってしまう現代です。

落語家の立川左談次さんが3月19日に亡くなりました。67歳。食道がんでした。がん

長尾和宏（ながお・かずひろ） 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。近著「薬のやめどき」「痛くない死に方」はいずれもベストセラー。西国際大学客員教授。

48 立川左談次



Twitterで病気を表したら『いいね』『いいね』の嵐で思わず『よかねえやい!』と叫んだ、つてのはネタですからネタ…

「抗がん剤治療開始。ナーバスか、足もとはコンバース」「大丈夫、命を削る様な氣で

行」とつぶやく日もあり、がんになつてからも精力的に高座に上がつていたことがわかります。お簽さんの笑顔を見るのが好きなので、闘病の息抜きになるとも語っています。公表から1年がたつた昨年の秋ごろ。「今日は耳鼻咽喉科、眼科、ct検査、食道外科の4軒掛け持ち、寄席なら売れっ子だね!」だけ。さつ出陣!」とつぶやいていますが、声が出にくくなつていています。食道がんが進行すると、せきや血痰が出たり声がか

で報告していました。以下は彼のつぶやきから。

「今日は病院から未廣亭に直行」とつぶやく日もあり、がんになつてからも精力的に高座に上がりついたことがわかります。お簽さんの笑顔を見るのが好きなので、闘病の息抜きになるとでも語っています。公表から1年がたつた昨年の秋ごろ。「今日は耳鼻咽喉科、眼科、ct検査、食道外科の4軒掛け持ち、寄席なら売れっ子だね!」だけ。さつ出陣!」とつぶやいていますが、声が出にくくなつていています。食道がんが進行すると、せきや血痰が出たり声がか

「20日間四週間よくぞ通い切った放射線治療。(中略)精神的にきつかった副作用も收まらないが、仲間の笑顔を見る為によ。今日は休養して又新たな挑戦を始めるよ…」

どこまでも前向きな発信は、落語ファンだけでなく、闘病中の人の励みにもなつています。死後もなお人を笑わせ、励ます左談次さんの言葉。デジタル生前整理なんて不要な人でした。

「幕」下りても遺した笑い